

輸出事業計画

※申請者名：南日本酪農協同株式会社 品目：チルド牛乳

1. 輸出における現状と課題

【現状】

当社の輸出は2010年から香港を先駆けとして、LL牛乳を中心に取り組んできた。
LL牛乳等については、日本製品の品質の高さからニーズも高く今後も継続した輸出が見通せる。
一方、日本製の商品が先行して販売された、香港においては、日本製の商品同士の市場バッティングが散見され、バイヤーからは差別化できる商品提案を近年求められている。このことから、香港市場においては、差別化できる新たな商品として「チルド牛乳」を提案していく。

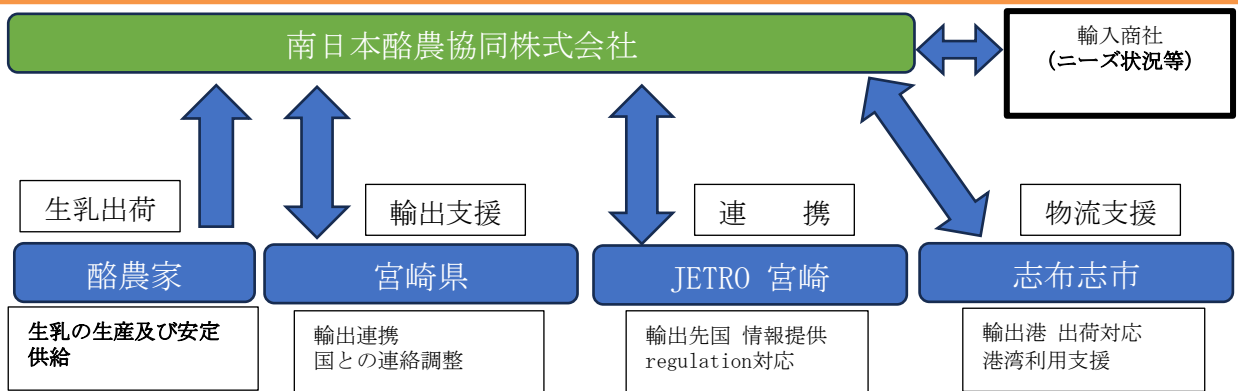
【課題】

- ①（製造行程）チルド牛乳の輸出に向けて、輸送期間を含めた商品の品質保持期限の延長が必須となる。
- ②（物流）実用的なコールドサプライチェーンを構築する必要がある。
そのためには、海上輸送に適合した包装形態（段ボール）で大量生産・販売に対応できる包装ラインの構築が必須でなおかつ、衛生面の観点から全自動のラインが必要。

2. 輸出事業計画の取組内容

- ①（製造行程）品質保持期限延長に向けた取組
溶液充填部内の容器殺菌能力を上げるため、現行の低圧水銀ランプから高圧水銀ランプへの変更を図り、容器殺菌効率を上げることで、賞味期限を延長する。
- ②（物流）実用的なコールドサプライチェーン構築。
海上輸送に適した輸送形態構築のため、以下のような、外包装の変更や包装に係るラインの全自動化。
 - (1)外包装の段ボール化。
海上輸送に適合した段ボールに外包装を変更（製造時の包装工程に新たに製函機・封函機の導入）
 - (2)段ボールへの商品投入の自動化。
衛生面の観点から全自動化を図るためにケーサー（製品を包装する機械）の改造
 - (3)パレット輸送への対応を図るため。
衛生面の観点から全自動化及び現行ラインとの共有化を図るため、パレタイザーの改造。

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

輸出品目		現状 (2024年2月期)	目標年 (2027年2月期)
チルド牛乳 (1000ml)	輸出額（千円）	0	55,300
	輸出量（本）	0	276,480
	輸出先国	-	香港